

第7節 価値観・性役割観

【ほとんどの中学生は「いい友だちがいると幸せになれる」(89.3%)と考えている。地位達成への意欲は、男子のほうが強く抱いている。性役割分業を追認するような固定観念をもつ中学生はかなり少ない。】(図2-13)

Q13

あなたは、次の意見をどう思いますか。1)～7)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

最後に、直接学習観・成績観とは関連しないが、中学生の意識の根底にある価値観・性役割観について調べてみた。項目は、一般的な価値観4項目と性役割観3項目の計7項目が用意された。いずれも、4段階評定法(「とてもそう思う」～「ぜんぜんそう思わない」)で尋ね、「とてもそう思う」と「わりとそう思う」の合計を求めた。

まず、全般的な価値観の中では、「いい友だちがいると幸せになれる」(89.3%)が際立って高い数値を示した。それに対して、

「お金がたくさんあると幸せになれる」(53.1%)、「将来、一流の会社に入ったり、一流の仕事につきたい」(46.2%)、「いい大学を卒業すると将来、幸せになれる」(44.6%)という意識は比較的乏しい。

性別にみると、地位達成へのこだわりは女子よりも男子によってはるかに強く支持されていることがわかる。依然として「性役割分業」が根強く残っている状況の中で、男子が社会的・経済的地位に執着するという意識がやはり強い。

それでは、この種の性役割分業を支える意識についてはどうか。特に、女子と男子の性役割観(固定観念の状況)がどの程度みられるかを探ってみる。データから、ほとんどの中学生は男女に対する固定観念からかなり自由であることがわかる。なかでも「本当に勉強ができるのは女子のほうだ」との男子の回答は女子の2倍に達している。どちらかといえば、社会的・経済的地位達成への意欲という点で、男女の差異化が中学校段階で進行していると考えられるようである。

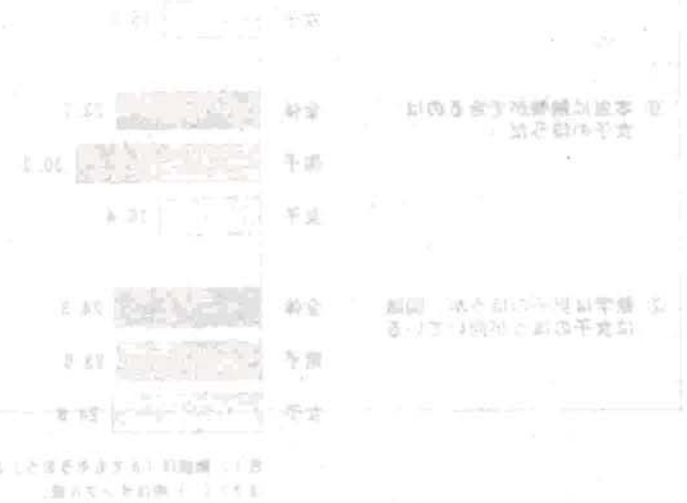
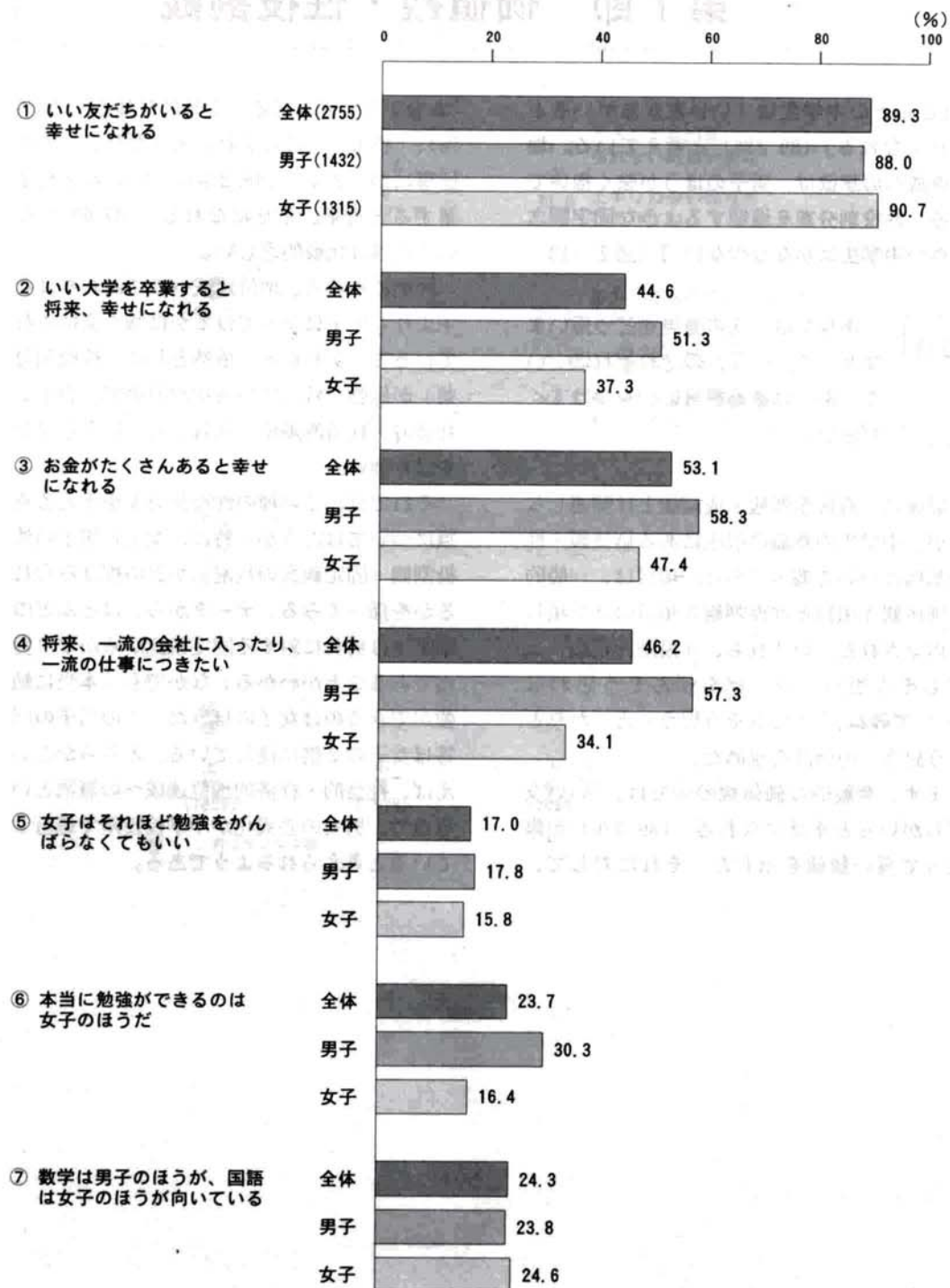


図 2-13 価値観・性役割観



注1) 数値は「とてもそう思う」と「わりとそう思う」の合計。
注2) () 内はサンプル数。